

自然と文化科 活動記録

日時	2024年8月23日 10:00~15:00	担 当 者
場所	福島区民センター 科内研修	文：高城光一 写真：水谷夏子
備考	参加者数 1班 16名 2班 20名 3班 19名 4班 14名	計 69名

第一話 淀川水系のお話

講師 1班 武川雄二氏

淀川水系という地質学的テーマを名所の写真を交え楽しく説明されました。骨子は次のとおり。

1. 淀川水系とは

淀川水系は幹川流路延長 75.1km、流域面積は 8240 km²に及ぶ。流域は琵琶湖、宇治川、桂川、木津川、淀川下流、猪名川の 6 つに分けられる。

- ① 琵琶湖流域は野坂山地、伊吹山地、鈴鹿山地、比良山地、甲賀山地に囲まれる。
- ② 宇治川流域は琵琶湖から流出した瀬田川が宇治川となり淀川本流となる。
- ③ 桂川流域は京都市北部を源とし、亀岡から嵐山に出て京都盆地西部を流れ、鴨川と合流する。
- ④ 木津川流域は三重県の青山高原を源とし、西に流れ名張川と合流し、木津町で北流する。
- ⑤ 八幡市の近くで宇治川、桂川、木津川の 3 川が合流し、ここから淀川下流となる。
- ⑥ 猪名川流域は大野山を源とし、箕面川などを合わせ、淀川分派の神崎川と合流する。

2. 淀川周辺の地質の歴史

- ① 2 万年前のウルム氷期には古大阪川が紀伊水道から大阪湾に流れていた。
- ② 7000~6000 年前海面は現在より 4m 高く河内湾であった。その後 河内湾を経て 1600 年前には河内湖となっていた。やがて淀川三角州が広がり大阪平野となった。
- ③ 300 万年前~20 万年前は大阪層群の時代といわれる。160 万年前までは温暖な気候でメタセコイア植物群が繁茂したが、寒冷化が進み 80 万年前に消滅した。その後氷期と間氷期が繰り返す時代となり、寒冷期のグイマツ、温暖期のアデクなどの化石がみられる。
- ④ 近鉄枚岡駅周辺は河川による扇状地で段丘層。斑レイ岩の地質が植生に影響しているかも。

第二話 攪乱依存性植物の保全と管理を考える 講師 龍谷大学農学部雑草学研究室 三浦励一氏

1. 自然保護に対する考え方が 20 世紀末頃を境にして大きく変わったと思われる。高度経済成長期に日本中が開発の名のもとに自然破壊が行われ、そのアンチテーゼとして人の手を加えないのが自然保護であるとの観念が生まれた。しかし、現実には人が手を加えなくても絶滅に向かう動植物の事例が多く、キーワードは「自然保護」から「生物多様性の保全」に変わってきた。



2. 水田や水路、ため池などの水系では多くの植物が絶滅危惧に陥っており、その原因は戦後普及した除草剤と見られてきたが 土地改良とか農業基盤整備などの大規模工事による水辺環境の破壊がその原因であることがわかってきた。
3. 草地の草花も絶滅危惧種が多いが、砥峰、生石、曽爾高原などでは絶滅危惧植物が残っている。それは今も火入れによる草原の管理が行われ 森にならないようにしてきたからである。
4. 貧栄養湿地でもサギソウやモウセンゴケ類などの食虫植物の絶滅が危惧されている。ある地域では 里山の放置による森林回復とともに遷移が進んで湿地が縮小していた。山を荒らした方が貴重な湿地をまもれるのではないか。そんなパラドックスが発生している。

「所感」

- ① 武川さんのお話では斑レイ岩のことと琵琶湖の移動のことが特に印象に残りました。
- ② 三浦先生のお話は真の自然保護はどうあるべきかという奥深い問題提起と受け止めました。